研究テーマ 人間の無知が社会に与える影響について

所属 学術研究部社会科学系（経済学部）

助教 多田由彦
https://researchmap.jp/yoshi-tada1688

研究分野	経済学、ゲーム理論、意思決定の科学、知識論、制度論
キーワード	アンアウェアネス、無知、知識の節約、信念の改訂

研究室URL：

研究の背景および目的

私はアンアウェアネス（unawareness）と呼ばれる無知の一形態について焦点を当てて分析をしています。たとえば、自然界では以前から存在しているがロベルト・コッホが発見するまではその存在を認知されていなかった「コレラ菌」に対する無知の状況が挙げられます。このアンアウェアネスは現実社会において常に付きまとう現象であり、人々の意思決定に影響を与えているのは明らかなので、本研究は人間の無知と意思決定との関係を分析していきます。



■主な研究内容

アンアウェアネスは人々が適切な行動をとるための足枷となっているように見えるかもしれません。実際無知ゆえに失敗する事例はたくさんあります。他方で、我々は完璧な知識を持っていなくても現実の社会を不自由なく過ごすことができます。例えば、道路交通法の法体系や判例を完全に理解していなくても、我々は自動車を運転するときに、信号機と制限速度と周囲の安全確認を心がけるだけで、事故のリスクを減らすことができます。無知な人々がなぜ社会をうまく回すことができるのか？それを説明するための研究を行っています。

また、教育やイノベーションや社会変革などはアンアウェアネスを解消するトリガーでもあり、これまで気づかれなかった現象や新たなリスクの発見を引き起こすことがあります。それにしたがって、人々は考え方や意思決定のあり方について見つめ直し、次にするべきことを考えなくてはなりません。こうした知識の変化に基づいた意思決定の修正をどのように行っているのかに注目する研究も行っています。

どちらの研究も数理モデルを用いた分析が主となっています。

期待される効果・応用分野

この研究は人間の無知に焦点を当てていますが、コンピュータ科学の分野とも関連を持ちます。AIに意思決定をさせる上で状況を整理する際、AIは事前に入力された情報の範囲でしか意思決定ができません。新しい条件が増えた場合には、AI自身で加えることができず、外部から再度入力し直す必要があります。こうした条件の再設定にあたってのルール作りと本研究が密接に関わりを持つと予想しています。また、本研究を発展させることで、AI自身が人間の力を借りずに新たな条件を特定するようなプログラムを発見することができるようになるかもしれません。

■共同研究・特許など

アンアウェアネス関連の一部研究について、他大学の研究者と共同研究を行っています。近々、共同研究の成果となる学術論文が国際誌より１本公開される予定です。

富山大学研究者プロファイルPure URL：
https://u-toyama.elsevierpure.com/ja/persons/yoshihiko-tada/